

編集委員会より

まず、お知らせです。『語用論研究』の正式な略称は（って変な言い方ですが）S/Pとなりました。「エスピー19に載った論文が…」のように呼んでいただければうれしいです。合わせて、表紙のデザインも変えました。

それから、今号より特集テーマを採用しています。「レトリックの語用論」という初回テーマの下に、2本の研究論文を掲載することができました。そして、次号S/P20の特集テーマは、すでにご案内しているように「(イン)ポライトネス」です。ふるってのご投稿をお待ちしております。もちろん、特集以外の投稿も通常どおり受け付けています(4/30メ)。

もう一つ、今号から、一つの投稿に対して年度内に2回(2サイクル)の査読と審査が可能なように査読システムを変更しました。投稿者の多くが大学院生など若い研究者である現状も見ながら、なかなか一度の査読だけでは採用レベルに達することが難しいことに対して、学会としてももう少し“教育的”な機能を果たせないかと検討した結果です。今回、計5篇の投稿論文を掲載することができたことにもつながっているかもしれません。

さらに、語用論の研究動向を会員に知らせるという役割もより意識しています。「語用論の新しい流れ」といった見出しから昔風の印象を抱かれるかもしれませんが、むしろ、研究が細分化して全体像が容易には見えなくなっている今だからこそ有用ではないか？との問題意識の反映です。

末筆になりましたが、今号では担当編集委員に加えて以下の方々も査読の労をとってくださいました。心より御礼申し上げます。

〈S/P19(外部)査読委員〉(敬称略、姓のアルファベット順、他1名)

有田節子、福田一雄、福元広二、後藤リサ、早野薫、林礼子、今村和宏、石黒圭、
神田靖子、笠貫葉子、北野浩章、木山幸子、甲田直美、古牧久典、粉山洋介、
森本郁代、森山由紀子、鍋島弘治朗、西川眞由美、尾谷昌則、小野正樹、大津隆広、
澤田淳、柴崎礼士郎、椎名美智、高橋英光、高梨博子、武黒麻紀子、多門靖容、
谷口龍子、時本真吾、内田聖二、柳澤浩哉、横森大輔

また、大変盛会だった第20回大会の研究発表については、運営委員に加えて以下の方々も審査に加わってくださいました。厚く御礼申し上げます。

〈第20回年次大会 外部審査委員〉(敬省略、姓のアルファベット順)

藤井洋子、井門亮、甲田直美、牧原功、増田将伸、難波彩子、小野正樹、澤田淳、
渋谷良方、高梨博子、高梨克也

(文責・編集委員長 滝浦真人)